令和５年度　学校運営評価外部委員会　議事概要

日時：令和６年３月 21 日（木）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：よこはま看護専門学校　分館 101 教室

１.校長あいさつ

〇この委員会の位置付けは、「大学等における就学の支援に関する法律」に基づき、授業料や入学金の減免を行う新たな就学支援制度が令和２年４月から開始されたことに伴い、対象校として確認を受けるための要件の一つとして、学校関係者評価が挙げられ、本校においても令和元年から設置したものである。

本日は、「2023（令和５）年度　学校評価報告書」に基づき、今年度の報告を行う。忌憚のないご意見をお願いしたい。

２.教職員紹介

重田副校長より、教職員紹介、配付資料の確認を行った。

３．「2023（令和５）年度　学校評価報告書」について

【加藤看護科長】

配付資料に基づき、１.教育活動、２.学校運営、３.学生支援、について報告

〇教育活動について

・「ヒューマンケアリングの精神に基づく授業内容が学生に響いている。その成果は実習に来ている学生の姿勢態度に現れており、人に関心が高いと感じる」「シミュレーション教育によって机上の学びが実習前から体験に結びつけることができ、可視化されることは理解が深まる」と委員より意見があった。

・実習前、学内から臨床を意識したシミュレーション教育を授業に取り入れ、イメージ化を促進する必要があると考え、取り組んでいる。

〇学校運営について

・「ハラスメントに関して、課題を共有することで予防・早期解決することができ、学生に対しても安全な学校生活を送るために必要なのではないか」、また「学生自身を守るためにも研修会など開催することが必要である」と意見があった。

・今後も継続的に教職員、学生に対して研修会等の開催を継続的に取り組んでいきたい。

〇学生支援について

・「社会人基礎力アンケートからは分かりやすく、学生の成長にもつながっている」、「学生は年次が上がるにつれて確実に自分の能力を向上できているので、モチベーションが低い学生がいたとしても支援できる体制があるといい」というご意見をいただいた。

・本校では、各学年担任制を設けており入学時、中間など定期的に面談を行っている。また、教職員間で指導の方向性や、状況について共有し取り組んでいる。

・今年度より入学前ガイダンスを新入学生向けに、仲間づくりや勉強習慣をつける目的で３回実施した。先月は保護者会も合わせて行い、保護者との関係性を築くということにも取り組んでいる。

【近藤副技幹】配付資料に基づき、４.入学生確保、５.社会貢献・地域貢献について報告

〇入学生確保について

・広報活動として、学校パンフレットの内容の見直しを行い、受験希望者、また本校に興味がある方の目にとまるような形で刷新した。

・Instagram は、例えば聖火継承式、入学式など行事ごとに、タイムリーにアップするようにしている。

・令和７年度入学試験から看護師を目指す者を広く受け入れられるよう総合型選抜入試を検討している。

〇社会貢献・地域貢献

・学生が主体的に学べる教育活動とともに、学生が生き生きと輝くことができる場を支援することを目標に取り組んできた。今年度は多くのボランティア活動に参加することができた。また、地域の福祉まつりや、病院が行うサマーキャンプへ参加、学校祭に地域の方をお呼びするなど地域貢献を図った。

意見交換

以上の説明を受け、照川議長より「事前に委員からの意見をいただき、外部評価委員会の学校評価の欄に記載している。意見、提案などをいただきたい。」と発言があった。

〇教育活動について

【荒瀬委員】

コロナも明けて間もなかったので、シミュレーターやインターネットを使った教育が主になったと思うが、これらのいい点と悪い点が浮き彫りになったと思う。

今後、元の状態に戻った時に、実習でないとできないことを実施していくことで、学生の時間を有効に使う手段としていいのではないかと感じた。

【長谷川委員】

学生が iPad を使い、授業がやりやすく思った。その上で気になるのはコミュニケーション能力である。学生だけではなく世間一般的にも能力が下がっているとは思うので、引き続き手助けできたらいいと思う。

【照川議長】

特に１年生は高校を卒業したばかりで、コミュニケーション能力、人とやり取りをすることを苦手とする学生が多いと感じている。

【長谷川委員】

学生からは、積極的に質問もあり素晴らしいと思っている。コミュニケーション能力については、どこでもそうだと思うので、アベレージ以上のものがあると思って、授業を行っている。

【遠藤委員】

私も新カリキュラムで行うことや、社会の流れ的に昔の看護師に求められた能力以外のことを私たちは今、求められていると思う。それに対して真摯に向き合い、シミュレーションを取り入れたり、グループワークを行ったり、とても努力している結果である。実習に来る学生の態度も良くスタッフからも好印象である。

学生は、コロナ禍で社会と隔たりのあった期間があり、心を育成し、友達と活動することが阻まれた時代であり、そうしたことを大事にしながら看護師を志している学生たちなので、同世代より感性はいいと思っている。そこを大切にしながら伸ばせたらよいのではないか。

【横井委員】
電子化・iPad に関しては、取り組み方はよく分かっているようだ。
１年生の時は紙の教科書から iPad 電子教科書になることで不安を感じていたが、iPad を活用した勉強に関しては難しくなく取り組んでいるように感じている。
【照川議長】
では、臨床判断能力について、臨床の方からのご意見をいただきたい。
【佐藤委員】
私が気になったところは、実習不合格の学生が増加しているという説明である。
学生たちも多様化している中で、知的には高くても、コミュニケーション能力など、人と接することに課題のある人たちがいるのだろうと思っている。何とか一人前の看護師に成長してほしいと先生たちが、一生懸命教育している一方で、看護師国家試験に合格後は一人の看護師として臨床に立つわけで、そこで、その人自身が苦しくなる場面もある。看護師養成校の中で育てる一方で、そのあたりを評価した結果、実習不合格の学生も出てしまうと思うので、学校に期待するところである。
【吉楽委員】
貴校の学生は、実習の中でしっかり学んでいるという印象を持っている。
臨床判断能力の育成は、当院でも臨床判断モデルを活用して思考発話や、リフレクションを数年前から取り組んでいる。看護学校でそれをカリキュラムで学んでいるので、そうした学生が就職してくると、病院としても非常にありがたいと思っている。
ただ、当院の看護師が自分の考えを伝えて実習の中で学生の指導ができているのか、という不安もある。そのあたりは、実習病院全体に浸透しているのだろうか。
【眞山主査】
実習の中で指導者には思考発話をお願いしたいとオリエンテーションでお伝えしている。看護師がどのように考えているのかという部分を伝えてほしいと言っており、浸透してきていると感じている。
【池田副技幹】
看護師たちは忙しい中でも、自分の考えを教えていただける機会が多いと感じている。臨床判断能力の育成について、看護師たちに自分の考えを教えていただきたいと伝えている。そうした場面で、教員も臨床の看護師たちとよく対話をして、それが学生への学習に繋がっていると思っている。
【倉田委員】
授業で習った勉強をどのようにしたら実習に活かせるか、学生指導の際に思っていたが、学内で演習とかシミュレーションをやることで可視化ができると思う。
実習に来る前に、iPad など ICT で学んだことをそのまま可視化することで、身につけて、イメージ化ができ実習に来ると、教える側としても学生に指導が入るのではと思っている。
【山内委員】
学生には地域の行事に参加してもらっているが、コミュニケーション能力は結構高いと思っている。行事などに参加してない学生さんもいて、そういう方々がコミュニケーション能力的に問題を抱えているのだろうと思っている。
私どもも学生の参加を歓迎したいと思っている。地域の行事に参加し、地域の年配者も多くその中でのコミュニケーション能力は、日頃の医療のケアにも役立つので、積極的に交流したい。
ICT 教育については、今は小中学校でもデジタルで教科の知識を学ぶので、とてもいいが、やはり看護となると、コミュニケーション能力が必要となるので、face to face の教育が不可欠だろうと思う。

〇学校運営について

【照川議長】

皆様からご意見をいただいているハラスメント防止に関する体制整備を行ったこと、組織における教員の支援体制を整備したということで、本当に教員が努力をされていると思っている。

【荒瀬委員】

ハラスメントは、教育とハラスメントの境界が文部科学省の定めているものも、よくわからないような感じで難しいと思う。ボーダレスの部分をどこで仕切るかということと思うが、学生たちにあまり寄り添い過ぎてしまうと、今度は学校運営が厳しいものになるだろうし、そこのバランスに関して、先生方にはある程度の線引きがあると思うが、やはり、ぶれてはいけない部分もあるという気がしている。

【長谷川委員】

ハラスメントはわかりにくい。スタッフ間でも話し合いをしっかりしないと、何も話せないことになってしまう。しかし、患者のためを思えばやる必要があると話をして取り組んでいる。教員同士でも共有しながらやっていくことが大事だろうと思う。

【遠藤委員】

ハラスメントについて、評価にリスクマネジメントの取組みを見習いたい。実習前に、ハラスメントの話をしていることはいいことである。特に訪問看護の現場では一人で在宅の場所に訪問するリスクがあり、私たちでも男性一人の家に行ったりとか、暴言を受けたりとかがある場面で、どこまで我慢すればいいかがわからないところがある。指導者からのハラスメントも含め、患者から受ける言葉使いに対しても教育されていていいと思った。身を守るということは素晴らしいと思う。

【横井委員】

保護者の立場から、実習前にハラスメントの対応の仕方や、先生にすぐ相談するなど、事前にオリエンテーションで説明があることを聞き、安心した。

今後、３年生になると実習が多く、遭遇することがあると実際聞いていた。実際にあった時は多分不安と、精神的にくるものがあると思うので、その時は先生方に対処してほしい。

【佐藤委員】

ハラスメントに関しては、計画的に丁寧に対応されていると思っている。学生がハラスメントと感じる時に声を出すことができる、臨床の方もそのような体制を作る必要があると思った。

学校運営のところで、専任教員の働きやすさについて質問したが、時間外等、非常に前向きに取り組まれているのが分かって安心した。

【吉楽委員】

私もハラスメントに関しては教員の中でもしっかりと学習もされているし、組織的なことも整理されていると思った。学生に対しても、実習前に説明がされており、安心した。そこで学生が教員に報告することができればいいので、学生へ説明は必要だと思った。

教員は全国的に足りないのか。それは仕事の厳しさが理由か。

【長岡校長】

全国的に教員が不足していることは、否めない。昨今の状況として、神奈川県では教員の平均年齢が上がっている。しかし、専任教員を希望する人は少ない現実がある。本校は、専任教員は看護師の５年以上の経験があり、さらに、一定の資格がなければ専任教員として採用することができないため、教員の質の担保については恵まれていると思っている。

【倉田委員】
　ハラスメントに関しては、患者の特性で片付けてしまうことも少なくはないことがあり、どのように学生に指導をし、学生の心をフォローしたらいいのか、とても難しく感じる。こちらの学校ではハラスメントがあった後に、学生と先生方がどのように話し合っているのか、精神的フォローはどのような形で行っているか。
【眞山主査】
　オリエンテーションの中で具体的な事例を挙げながら伝え、我慢をするのではなく、学生自身が疑問に思った時点で教員や指導者に伝えるよう話をし、実習を行っている。
　こうした事象があれば、すぐに指導者や師長に相談させていただき、早急に対応し、学生に話を聞く、必要時、学校のカウンセリング等も活用し、実習後も担任から声をかけフォローしている。
【山内委員】
　先生と学生の上下関係が厳しくなっていると、どうしてもハラスメントが起きやすくなると思うし、相談をしづらくなると思う。友達関係というわけではないが、お互い冗談が言い合えたり、先生も授業の中に、自分の失敗談を語ったりなど、さらけ出すような形でコーチングをやっていただけると何かあった時も言いやすいと思う。
　外部の相談窓口を持っているということだが、中の人は言いづらいと思うので、外部の相談窓口を充実して、言いやすいシステムにしてほしい。
【長岡校長】
　教員達には、成績をつけ、評価をする立場なので、どうしてもハラスメントが起きやすい環境であるという前提で関わってほしいと考えている。山内委員からいただいた弁護士への相談については、本校の組織運営を円滑にするために導入したいと思っている。学生が外部もしくは第三者に相談する体制については、ご意見をいただいたので、考えていきたいと思っている。
【照川議長】
　患者さんの臨床でのことは実習評価には関わらないということを伝えていただくと、学生さんも安心して受け入れやすいと思う。万一、不幸にも起きてしまった、受けてしまった場合には、トラウマにならないようフォローを学校の方でも臨床の方でも早急にお願いしたいと思う。
　アカデミックハラスメントの対応は避けられないので、教員がしっかり教育を受け、研さんを重ねていただきたい。

〇学生支援について
【照川議長】
学生支援について、特に課題学生の生活とかメンタル面の支援、それから退学者対策について、ご意見いかがか。
【吉楽委員】
　退学する学生の背景に何か共通点はあるのか。
【加藤看護科長】
　入学後、早い段階で学生の変化をキャッチできるよう、学生との対話を図るため、学生が表現しやすいアンケート等の媒体を活用し、学生支援を強化したい。そのため、１年生の担任で勉強会など取り組んでいきたいと思っている。
【萩原技師】

退学者が多かった理由については、進路変更をする学生が一定数いたと考えている。進路変更の理由としても、入学時から進路に迷いがあったり、心身の不調であったりと様々であった。学生の発信力が低いことを踏まえると、状況を見ながら早めに学生に個別に声を掛けることや、カウンセラーに対応を相談しながら取り組むというところを強化していきたいと考えている。

【倉田委員】

カウンセリングが月に２回で１日３枠というところで、学生の数に比べるとカウンセリングの枠がかなり少ないと感じる。外部のカウンセリングは、もう少しあった方がいいのではないか。

【照川議長】

学生の支援だけでなく、保護者に対し学生の状況を丁寧に説明するなど、保護者への支援も併せて行っていくことが必要だと考える。

カウンセリングについては、教員が教育に専念するためにも、カウンセラーの支援・協力を受けることが教員の支援に繋がると思う。

〇入学生確保について

【照川議長】

パンフレットの下部に記載された「あなたの未来を描くドラマが始まる」という言葉や、写真の学生の生き生きとした明るい表情をとても素敵だと感じた。学習内容もイメージし易く、拝見したインスタグラムも手作り感があり「よこはま看護専門学校に来てください」というメッセージが伝わってきた。18 歳人口は減るが、看護は素晴らしい仕事だし、社会人経験者も何十年と働けるので、是非、看護師を目指す方に見てもらいたい。私も実際、車内広告を見たが、一般の方にも目にとまるし、すごく良い広告だと思った。

〇社会貢献・地域貢献について

【山内委員】

地域では、学生がお祭りにきてくれたり、住民がこちらの学校祭にきたり双方向の交流があるが、今後さらに広げていきたいと考えている。例えば学生は災害時の学習もしているとあったが、地域の防災訓練にきてもらうのは可能か。

【長岡校長】

災害看護の実際について、トリアージや DMAT などをもう少し詳しく説明させていただく。

【須田副技幹】

災害看護ではトリアージの他に、避難所や救護所の設置場所の検討、また看護学生だったら具体的にどう行動するかなど、机上シミュレーションによって学習している。県内の大学や大学病院の DMAT の方を講師に呼び、リアリティを持って災害看護を学んでいる。

【照川議長】

看護学生ができることはたくさんある。私たちもそういう局面を迎える機会は少ないので、学生がシミュレーションを通して DMAT の方に直接教えてもらっているのは本当に貴重な経験だと思う。

【佐藤委員】

精神疾患をもつ患者に対してボランティアの方が対応するのは割とハードルが高い一方、看護学生はスタッフとも違うためか、患者から非常に受け入れが良い側面がある。精神科疾患のある患者を知ってもらう機会にもなると思う。

【照川議長】

教育活動では、臨床判断能力かなり力を入れて教育をされている。ICT ではメリットとデメリットを踏まえて教育を進めていただきたい。学校運営では、さらに学生が言いやすい環境づくりに取り組んでいただきたい。教員、教育の質の確保は、学校組織で考えていくべき問題であると改めて感じた。学生支援に関して、退学率が非常に懸念されたが、丁寧に関わっており、今後も指導を続けていただきたい。入学生確保に関しては、非常に良いパンフレットが作成され、学生も自分たちの後輩を呼ぼうと取り組んでいると感じたので継続していただきたい。社会貢献では、地域側も受け入れたい、お手伝いをしてほしいという要望があるので、リサーチし、さらに地域に出ていけると良いと思う。

令和５年度の全体評価として、学校運営は概ね問題なく実施できていると総括してよいか。

（出席している全ての外部委員から了解を得た。）

〇長岡校長より謝辞を述べ、閉会。